

避難生活支援リーダー/サポーター研修 モデル研修 実施報告

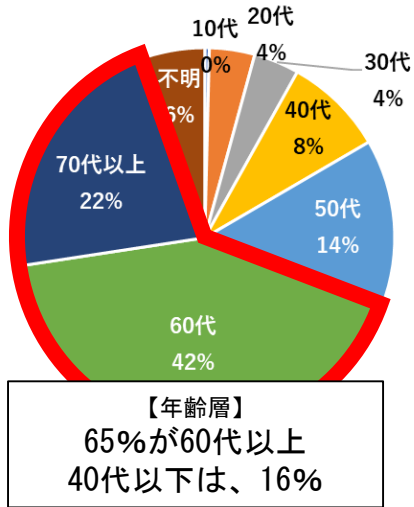


	受講者数	修了者数 (2日間以上参加者)	名簿登録者数
群馬県 前橋市	55	53	45
長野県 上田市	65	57	52
愛知県 美浜町	32	29	28
大阪府 吹田市	42	34	31
岡山県 矢掛町	60	46	36
計	254	219	192

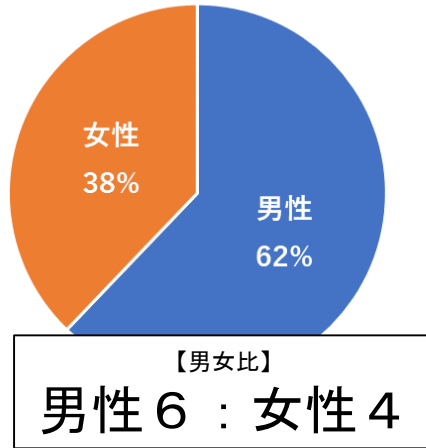


受講者属性（全モデル地域合計）

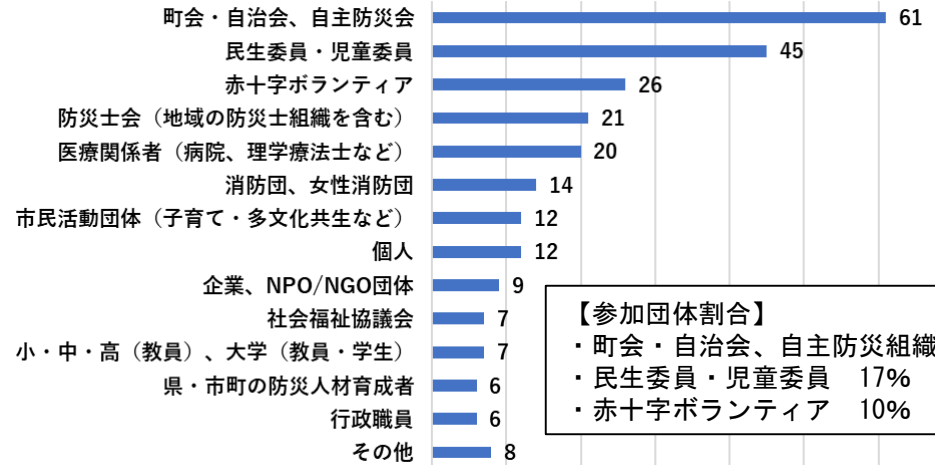
受講者年齢層（N=259）



男女比（N=259）



受講者の所属（N=259）



研修先ごとの属性

研修先	受講者特性
前橋市	男性27名、女性28名 受講者の50%50代以下 前橋栄養士会（3名）、日本防災士会群馬県支部（9名）、赤十字防災ボランティア（6名）
上田市	男性39名、女性31名 民生委員・児童委員（35名）
美浜町	男性15名、女性17名 受講者の75%が60代、70代以上 美浜町周辺町からも参加（武豊町、南知多町） あいち防災リーダー会からの参加もあり（※防災減災カレッジ修了者による団体）
吹田市	男性33名、女性9名 20-30代（7名） 吹田市理学療法士会（9名）、吹田市地域防災リーダーからの参加もあり※吹田市で育成する防災人材
矢掛町	男性47名、女性13名 町会・自治会、自主防災会（23名）、岡山赤十字災害支援奉仕団（12名）

研修実施の様子（1）



オンデマンド講座

項目	講師
1 人材育成の必要性（10分）	村上威夫氏（内閣府（防災担当）参事官）
2 支援者としての心構え、姿勢（9分）	栗田暢之氏 （全国災害ボランティア支援団体ネットワーク代表理事）
3 災害「支援」の基礎知識（16分）	阪本真由美氏 （兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授）
4 避難所における基礎知識（12分）	辛嶋友香里氏（ピースポート災害支援センター） 関真由美氏（日本赤十字社医療センター）
5 被災者への配慮とニーズ対応（16分）	辛嶋友香里氏（ピースポート災害支援センター）
6 避難所運営の知識とスキル①（14分）	浦野愛氏（レスキューストックヤード）
7 避難所運営の知識とスキル②（15分）	浦野愛氏（レスキューストックヤード） 辛嶋友香里氏（ピースポート災害支援センター）
8 日常からの取り組みの重要性（21分）	三谷潤二郎氏（倉敷市人権推進室） 松岡武司氏（倉敷市社会福祉協議会）

LMS（eラーニングシステム）、DVD視聴、上映会視聴いずれかの方法で演習1日目までに受講

講師動画



避難所運営演習 1日目

項目	概要
(1) 開会等 13:00~13:20 (20分)	・開会挨拶／研修のオリエンテーション
(2) 基礎講義 1 13:20~13:45 (25分)	○避難生活支援リーダー/サポーターとは ・モデル研修実施の背景、ねらい ・避難生活支援リーダー/サポーターの役割
(3) 基礎講義 2 13:45~14:45 (60分)	○多様な被災者の理解とその配慮 ・被災地・被災者への理解 ・災害時における要配慮者の立場例
14:45~14:55	休憩
(4) 演習 14:55~16:30 (95分)	○被災者の心情や状況の理解 ・被災者の置かれている状況や心情、その背景の理解
(5) クロージング 16:30~17:00 (30分)	・委員からの講評 ・受講者同士のふりかえりとアンケート記入 ・今後の研修のプログラム紹介／閉会挨拶



研修実施の様子（１）



避難所運営研修 2 日目

項目	内容
(1) 開会等 10:00~10:20	・開会挨拶／オリエンテーション
(2) 基礎講義① 10:20~10:50	○避難所の全体像の理解 ・避難所の機能／避難所運営の一日の流れ ・中長期の避難所の機能と運営の担い手／生活環境の整備
10:50~11:00	休憩
(3) 演習① 11:00~12:00	○避難所の課題と生活環境の整備 ・グループごとに再現したスペースを巡回し、気になるところなどを確認する
12:00~13:00	昼食・休憩
(4) 演習①（続き） 13:00~16:30	○避難所の課題と生活環境の整備（続き） ・グループで改善策について話し合い、全体で発表・共有 ・解説（それぞれ生活の視点を理解する点などを紹介）
(5) クロージング 16:30~17:00	・委員コメント／ふりかえり／アンケート記入 ・閉会挨拶

避難所運営研修 3 日目

項目	内容
(1) 開会等 10:00~10:10	・開会挨拶／オリエンテーション
(2) 基礎講義①演習① 10:10~12:20	○対人コミュニケーション（講義） ・避難所におけるコミュニケーションの目的、基本 ○対人コミュニケーション（演習） ・コミュニケーションの仕方を体験する／演習共有と解説
12:20~13:20	昼食・休憩
(3) 基礎講義② 13:20~13:50	○被災者の困りごと把握の重要性 ・課題解決の考え方 ・被災者との情報共有、参加できる場づくり
(4) 演習② 13:50~16:30	○情報共有・認識共有・合意形成の必要性 ・5つの被災者の状況にあわせて、困りごとの整理、対応策等を話し合い、全体で発表・共有する／演習の解説
(5) クロージング 16:30~17:00	・ふりかえり／アンケート記入 ・閉会挨拶



避難生活支援リーダー/サポーター研修モデル研修アンケート結果 (前橋市・矢掛町・美浜町開催分)

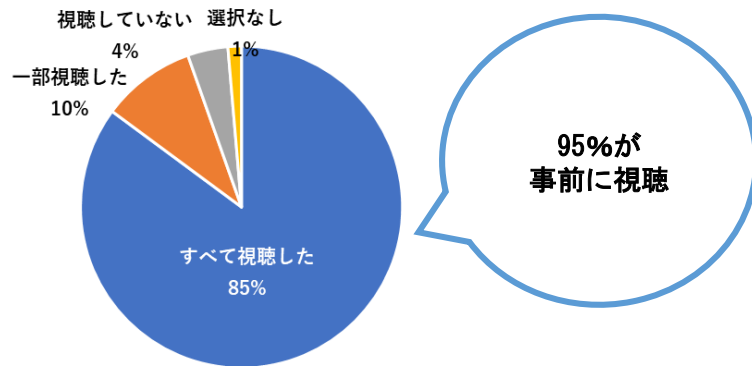


オンデマンド講座

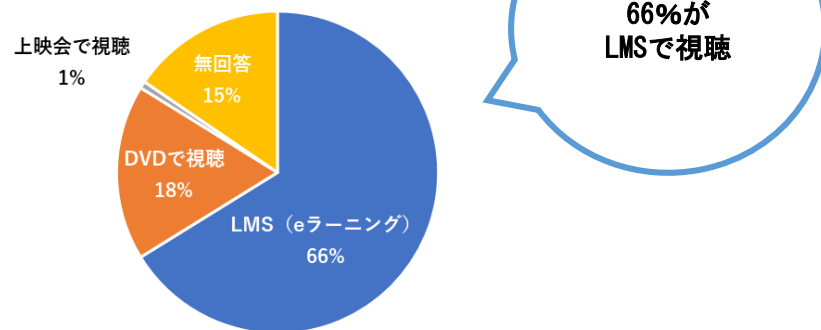
Q1. オンデマンド講座の受講状況、受講方法

○受講状況 (N=148)

※研修1日目実施3週間～1か月前までに受講者にオンデマンド講座の視聴機会を提供

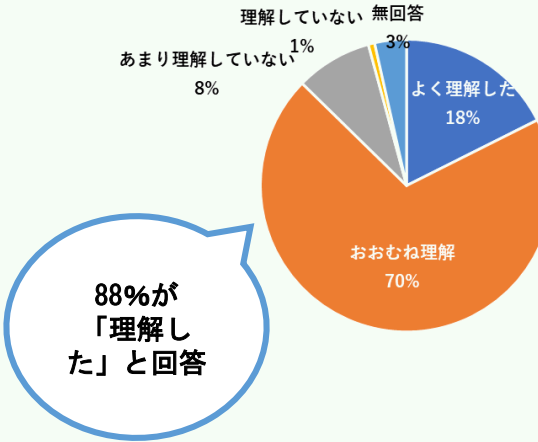


○受講方法 (N=142)

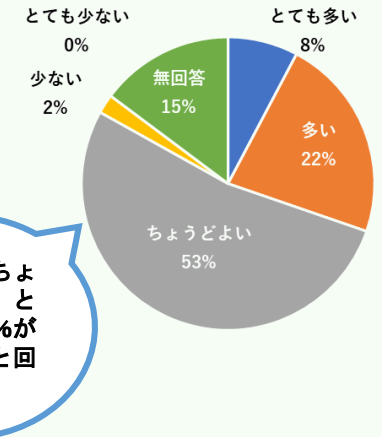


Q2. オンデマンド講座の内容の理解度、情報量/長さ

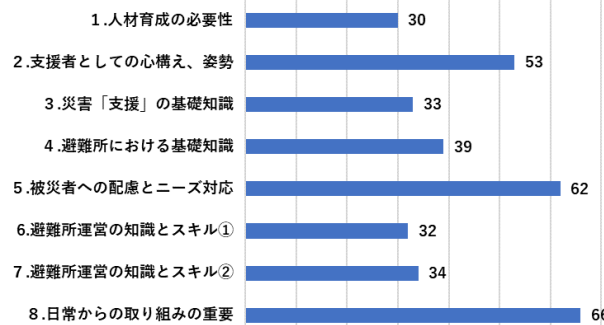
○理解度 (N=142)



○情報量/長さ (N=142)



Q3. 印象に残ったプログラム (最大3つ)



- 被災者の様々な背景に配慮しなければならないこと。支援者として多様性をもって接することの必要性を改めて理解した
- 被災者の気持ちの配慮がとても考えられた内容であり、多くの人に受講してもらいたい
- eラーニングなので止めたり出来て理解しやすかった
- 情報量が多様、大量であり受講者に要求されるのはどこまでなのか。自分に対応できるのか不安になった

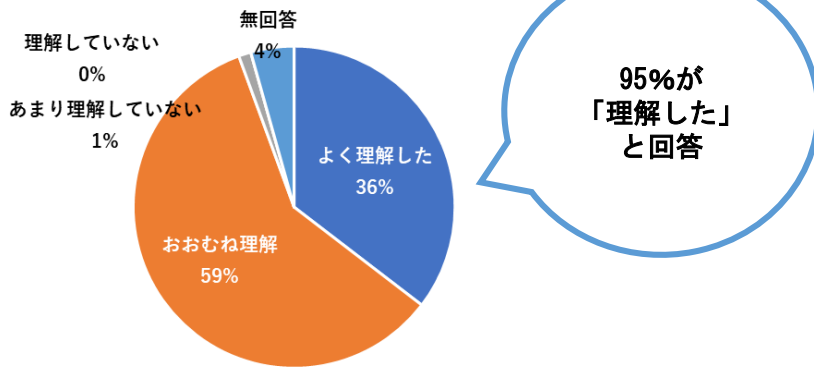
避難生活支援リーダー/サポーター研修モデル研修アンケート結果 (前橋市・矢掛町・美浜町開催分)



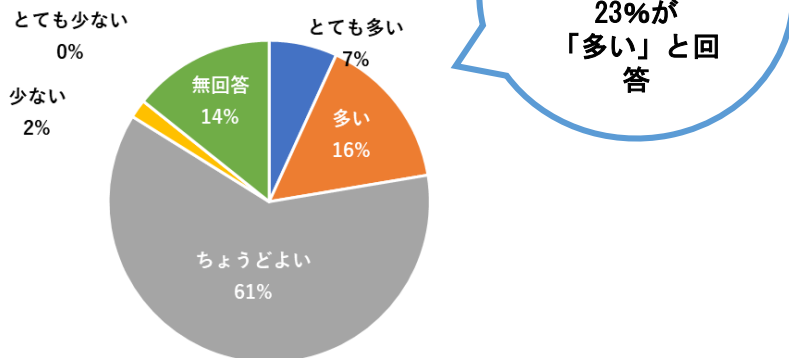
演習 1 日目

Q1. 1日目の全体の内容の理解度、情報量/長さ

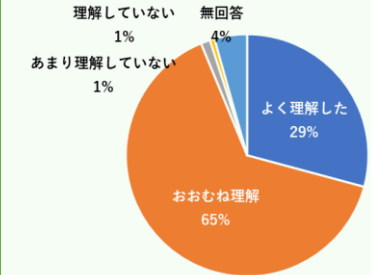
○理解度 (N=161)



○情報量/長さ (N=161)

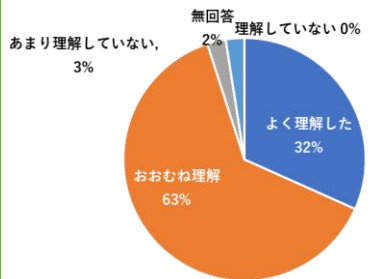


Q2. 基礎講座1の理解度と印象に残った点



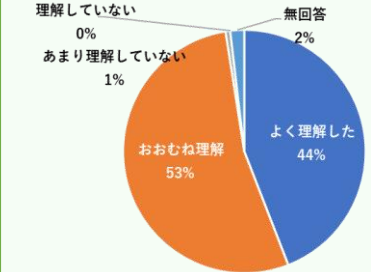
- 支援する人を増やすことができれば、多くの被災者の方を理解し、配慮することができるという事を知った
- 1つとして同じ被災地はない、地域の人達と一緒に考えていくというキーワードが印象的
- 地域に根差した活動が発災時にも重要で日頃からの準備の大切さを改めて感じた

Q3. 基礎講座2の理解度と印象に残った点



- 避難所は生活再建をする一歩手前の場所なので次に向けての希望が持てるようにする
- 感性を大切にするために支援者が健康で集中できる環境が大切
- 避難所は生活再建までの中継地点、そこで気持ちが折れたり、体を壊したりしないよう運営サポートする必要がある
- 避難所に避難する人は一人一人状況も心情も違うのだと改めて気づいた

Q4. ワークショップの理解度と印象に残った点



- 体に不安のある方の心情が知ることができ良い経験になった。少しでも避難している人に寄り添えられたらと思った
- 自分たちで考え、その上でほかの方の意見を聞いたことで違う視点での発見ができた
- 「ありがとうと感謝しすぎることが後々ストレスになる」という視点が自分にはなかったので知見を広げることが必要だと感じた

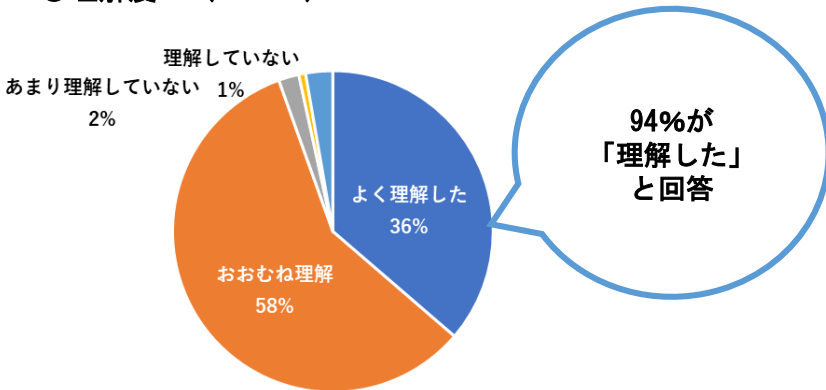
避難生活支援リーダー/サポーター研修モデル研修アンケート結果 (前橋市・矢掛町・美浜町開催分)



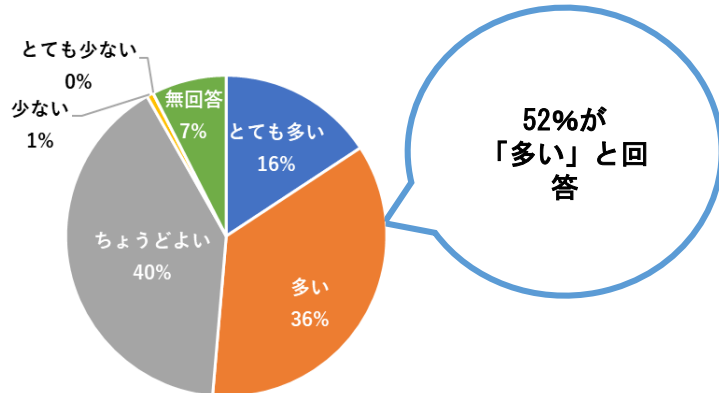
演習 2 日目

Q1. 2日目の全体の内容の理解度、情報量/長さ

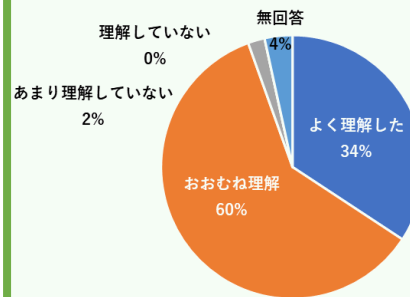
○理解度 (N=146)



○情報量/長さ (N=146)

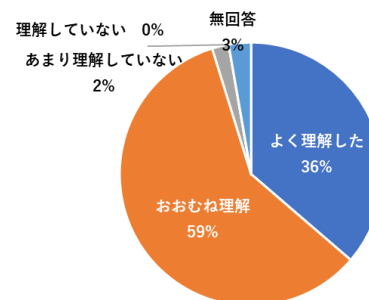


Q2. 基礎講座の理解度と印象に残った点



- 避難所はいろいろな立場の人がいるので多くへの配慮が必要。支援者だけでなく利用者も一緒に考えて運営することは大切
- 改善ポイントは見過ごそうと思えば見過ごせる。なるべく様々な場所や人に目をやり小さい事でも気づけると良い
- 避難所運営で配慮することも多いのでどうすればうまく運営ができるのか課題を認識できた
- 避難所は健全な心を取り戻す場であり、その後の復興への活力や生活再建へのステップである
- 中長期の避難所に必要な要素について被災者によりそい被災者の心を守り、意欲を呼び起こすことにつなげることは大変だと感じた

Q3. ワークショップの理解度と印象に残った点



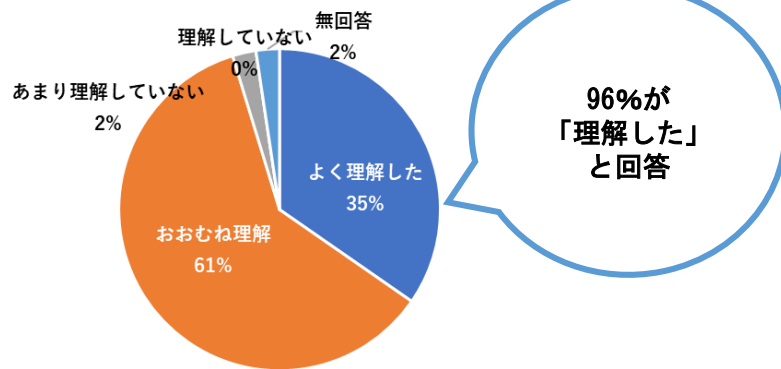
- パーフェクトの正解はない。もし自分だったらそう考えるかをチームで情報共有してよりよい生活環境を整えていくこと
- 今まで見えていなかったことが実演することで見えてきた。避難者の状態を読み取ることと同じ目線で話を理解することが大切とわかった
- 机上訓練とはちがひ、実際にものを使ったりあるもので工夫したりする体験は貴重だった。ちがう意見をまとめたり、尊重したり、チームで動くことの大切さも学んだ
- いろんな場所生活につながる場に対して被災者の立場にたって気づくことが大事だと感じたが、十分な気づく力が足りないことを痛感



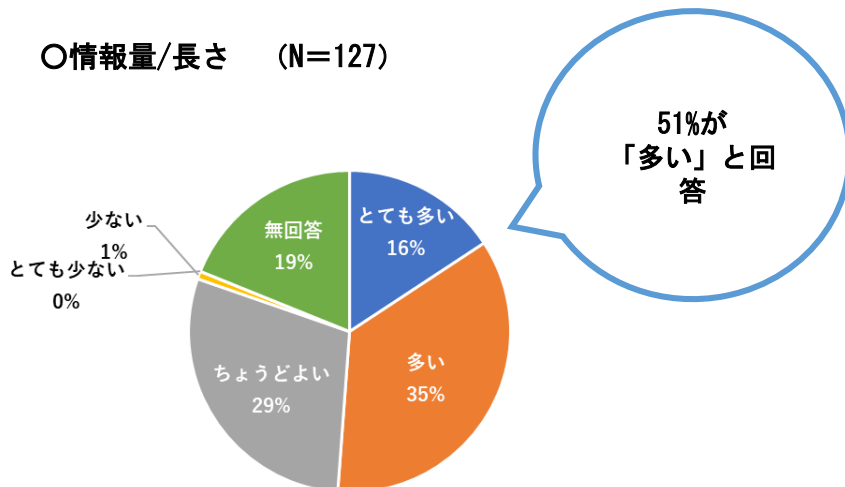
演習3日目

Q1. 3日目の全体の内容の理解度、情報量/長さ

○理解度 (N=127)

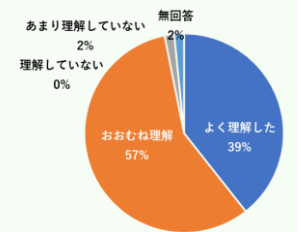


○情報量/長さ (N=127)



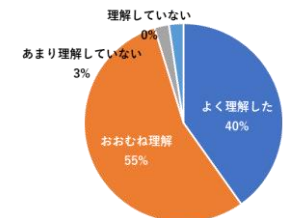
Q2. 基礎講座1の理解度と印象に残った点

- コミュニケーションのテクニック、聴くためのポイントなどわかりやすく普段から使ってみようと思った
- いろいろな考えや、見方があった。思いを同じにする仲間がいて、安心した
- 五感を使って表現する、生活再建を願う気持ちが何より大切



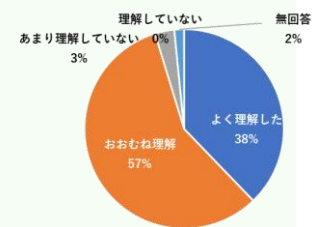
Q3. ワークショップ1の理解度と印象に残った点

- 話を伺っている方の抱えている問題点など聞き出すのは簡単ではないことがわかった
- テクニックも大切だが心を入れる相手を思う態度・姿勢が重要
- 実際の現場ではないのに緊張しほとんど出来なかった
- どこまで、踏み込んで話したらいいのか、切り口が難しいと実感



Q4. 基礎講座2の理解度と印象に残った点

- 一人で抱えず協力を求めていくことの大切さを感じることが出来た
- 様々な人たち、当事者も含めて協働していくことが大切だと思った
- 知らない、初めて会う人達が集まっている中でこそ報連相が非常に重要になること
- 共感力と協働力は日頃から人との関わりの中で学んでいくことが必要だと思った



Q5. ワークショップ2の理解度と印象に残った点

- 知ったことを共有し発進させていくことの大切さを理解することができた
- 気付いたことをどのように情報共有し解決に結び付けていくのか難しく感じた
- 多様な考え方がある中で、共通の理解がしあえる環境づくりの難しさを感じた

